

市史講座第4回ミニレポート

7月14日(土)第4回の講座が開かれました。

第1部：「律令国家と出雲」(講師:東京大学大学院教授 佐藤 信先生)



佐藤先生は、律令国家とはどのような特徴を持っているか、そのような国家が出来上がっていきなで地方はどう変わっていったのかを、様々な角度から端的に整理してわかりやすく解説されました。

そして、出雲の変容を史料に即して具体的に語られ、出雲国造による支配から出雲国司の支配への制度変化の実相や、律令国家確立後も特別に位置づけられていた出雲国造の特殊性など、いくつかのトピックに言及されました。

最後に、『出雲国風土記』を筆頭に全国的にみても出雲にしか残っていない古代史の貴重な史料があることを指摘され、今後「松江市史」で描かれる出雲の古代史は、日本の古代史の中で重要な位置を占めると締めくくられました。

第2部：「絵図にみる城下町絵図-松江城下町絵図の特徴-」（講師：山形大学准教授 渡辺理絵先生）



渡辺先生ははじめに、絵図とは、古地図ともよばれて江戸時代、幕府や藩からの指示で、城下町、町人地や村々など多種多様な絵図が作成され、絵図の黄金期といわれていること、そして、城下町絵図には幕府や藩庁のための公用図と、私的に写され利用されたり、出版されたりした私用図があることなどを話されました。

松江市史絵図地図編編集のために悉皆的に調査した絵図のうちから、これまでの松江城下町図の調査、研究の足跡を説明された後、多数ある松江城下町図のうち、堀尾氏時代、京極氏時代、そして松平氏時代の代表的な公用図の特徴を取り上げて個別に解説されました。

そして、それら城下絵図から見る松江城下町の300年間余の変化が読み取れることを話され、さらに絵図に描かれた景観にも注目することで、江戸時代の風習、風俗、四季折々が読み取れることも付け加えられました。

